

『ナイル川クルーズとエジプト周遊 10 日間の旅行記』 新田町 加藤 勝司

一日目： 私達夫婦と、近所のご夫婦でH.13.6.11.~6.20.まで 10 日間の旅に出る、ホテル 4 泊、船 3 泊、成田に集合、集合すると大韓航空機ストのため成田→ソウル→ドバイまでは行くが、その先ドバイ→カイロ間は運航出来ないとのことで、急遽パリ観光が一日サービスとなる。エールフランスでドゴール空港へ向けて、13 時間の飛行機の旅になる(日本とパリの時差 7 時間)

二日目： パリ市内観光、バスでセーヌ川のほとり、ノートルダム寺院見物、この建築は 2 世紀半かけて 1345 年に完成した寺院である。入口の扉の彫刻を見て中に入ると余りにも広いので目を見張る、天井にはバラ窓と呼ばれる 3 つのステンドグラスの美しさには圧倒された。

車窓よりコンコルド広場、1790 年大革命時にこの広場でルイ 16 世王妃マリーアントワネットらが断頭台の露と消えた場所である。中央にエジプトから贈られたルクソール神殿のオベリックスが高くそびえている。凱旋門、を見て、エッヘル塔が良く見える場所に下車してパリのシンボルを見る。夕方ドゴール空港→カイロまで、飛行時間 4 時間 (パリとの時差 1 時間)

三日目： アレキサンドリア観光、バスで片道 3 時間のドライブである。砂漠の中に延々と続く高速道路、道路端には砂よけに、成長が早く、乾燥に強い木が国策で植えられている。エジプトは 4 年前に、ルクソールでテロのため観光客が犠牲になり観光収入が減ったことで、観光客の安全を守るため町中やホテルの入口にも、自動小銃を持った軍隊、警察官が観光客を守ってくれる。私たちのバスにもピストルを持った警察官が同乗し、観光場所に私達と一緒に行動する。アレキサンドリアは、紀元前 4 世紀にアレキサンダー大王の命令で出来た都市である。クレオパトラ 7 世も住んでいたというこの町は、現在地中海の真珠と呼ばれ、美しいリゾート地としてヨーロッパにも知られている場所である。

グレコローマン博物館の展示品は、エジプト各地から出土した、ギリシャ、ローマ時代の遺物の収集品である。大理石製のアレキサンダー大王像 1.5m 程の高さ、シーザーとアントニーを手玉にとった末に、蛇に噛ませて自殺したと言うクレオパトラ 7 世の像、シーザーの头像等であった。エジプトも人口増加の傾向のため国策として少人数で幸せの生活をと、テレビで宣伝しているとの事である。

現在カイロ市内では一夫多妻の家庭は少ないが、地方ではまだまだ多いとのことである、私達の現地ガイドは、3 人の奥さんがいると話していた。人口増加の問題点、住宅、水、電力、食料品等が少ない理由との事である。

四日目： 朝は必ず霧が出て視界が悪くなる、いよいよ目的のピラミッドにあえる、子供の頃世界三大建造物は、戦艦大和、万里の長城、ピラミッド、その中の一つでもみられればと良いなと子供の頃からの夢であった、その一つピラミッドが現実に目の前に大きな威容でそびえ建っているのを見て、ただ言葉にならず見とれるのみであった。ギザの三大ピラミッドのうち、一番大きいクフ王の大ピラミッドは 1 辺が 230m、高さ 140m、傾斜角 51° の四角錐である、建造は紀元前 2589~2530 年頃とのことである。

エジプト考古学博物館、ここでの展示品は多数あるが、その中の一つツタンカーメン王の秘宝である、王が着けていた黄金のマスク、黄金の内棺に横たわっていた王のミイラは、この仮面を被っていた、表情は 18 歳の若さで死んだ王に似せてあるとのことである。その黄金の内棺は全体が 22 金の無垢で長さ 1.85 m 重さ 110.4 kg との事である。

五日目： カイロ→アスワンまで飛行機で約 1 時間、バスで約 30 分の場所に、アブシンベル大神殿と小神殿がある。この神殿はエジプトのピラミッド、スフィンクスと並んで観光パンフレットやビデオで紹介されているエジプトのハイライトの一つである、この巨大な石像 4 体(高さ 20m)が紀元前 1300 年前に作られているとは、いかに当時の人達の芸術と技術が高かったかがしのばれる、

又この神殿がナセル湖の増水で水没するため 1963 年に現在の場所まで 110m 移動させ遺跡を救ったのは、日本の技術者であり現在の技術者もすごいものであると誇れます。これからナイル川クルーズ 3 泊である。

六日目 (船内泊)： 朝 5 時出航アスワン→ルクソールまで船旅である、ナイル川の岸辺より約 100m ~150m ぐらいは、緑が生い茂っているが、その先は荒涼とした砂漠である。船からの景色は時々すれ違う大型観光船や、現地の人達が網をうつ光景がゆっくりと流れてゆく、なんと優雅な旅であろう。途中岸より近い観光地を、朝の涼しい間に約 3 時間観光して、あとは船室で船旅を楽しむ、夕暮れ川辺に生えている椰子の木の間に真っ赤な太陽が沈む光景は本当に素晴らしく感じました。

七日目 (船内泊)： ルクソールで船を降りバスにて東岸観光となる、カルナックスアメン大神殿のハイライトは、高さ 23m の中央柱 12 本を中心に計 134 本の柱が並ぶ大列柱室である、ルクソール神殿は南の聖域として建設されたのである。二つの神殿の間を神輿が渡御する神事の模様が神殿の壁にレリーフとして見られる。

八日目 (船内泊)： ルクソール西岸観光、砂漠の中周囲は黄色い砂と、岩だらけの場所にハトシェプスト女王葬祭殿がある。古代エジプト史上珍しい女性王のハトシェプト女王が、紀元前 1,503~1482 年に建設したとの事です。ここが 4 年前にテロの乱射で、日本人を含む 62 名の観光客が犠牲になった場所です、その関係で一部修復工事中のため見学出来ない場所もあり、各所で工事をしているところであった。

王家の谷、歴代王のピラミッドは根こそぎ盗掘されたということで、紀元前 1567~1300 年の王の墓所は深い無人の荒野の奥にある谷間のさらに奥深くに隠れた場所に作ったが大部分の墓が盗掘されてしまった。幸いにも 1922 年イギリスのハワードカーター氏が発見したのがツタンカーメン王の秘宝です、重さ 235kg の純金製の棺をはじめ 2000 余点の豪華な副葬品が出て有名になった場所である。これで全日程の観光は終了した。ルクソール~カイロ飛行機

カイロ泊

九日目： カイロ→ドバイ空港 時差 1 時間

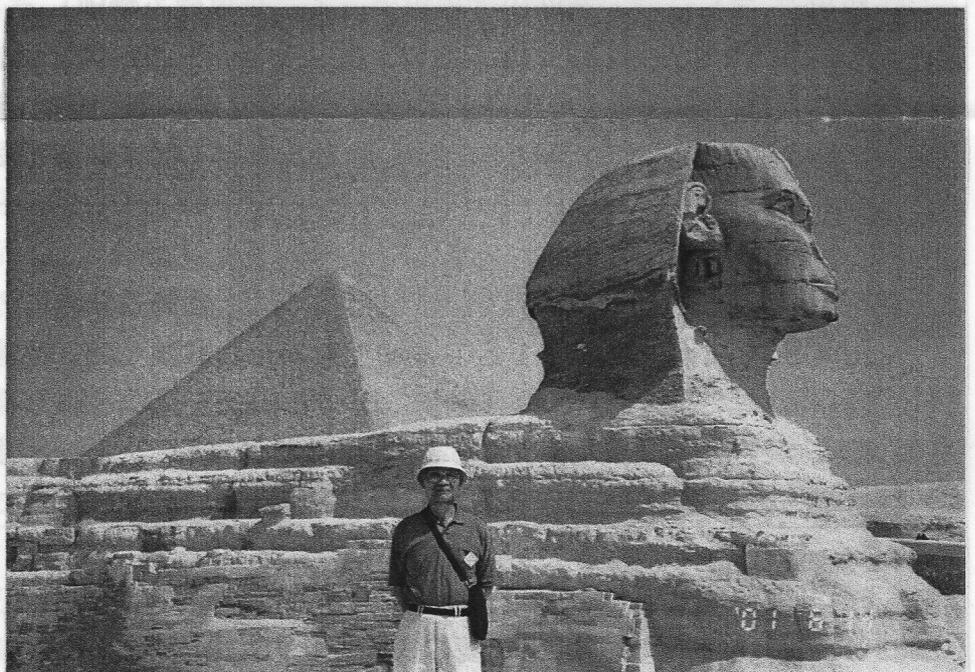
サハラ砂漠の上空からアラブ首長国連邦、ドバイまでの大地は延々と続く黄色の砂漠、緑一つない荒野に、大きな近代的新しいドバイ空港がある。ドバイ→ソウル 時差 5 時間

ドバイ空港を出発、上空からの眺めは相変わらず荒涼とした砂漠が続く、あたりが暗くなり一眠りして、眼が覚めて窓の外に目をやると黄海上、韓国に近づくにしながら緑豊かな山々が続く、見慣れた風景になってきた。ソウル空港 7 時到着。

十日目：ソウル→成田

ソウル空港は今年開港になったばかりの、新しく綺麗で大きな空港である。

成田着 11 時 30 分 待望のピラミッドを見物して、ナイル川クルーズ、現地での買い物や値引き交渉、同行ツアーの人達との語らい等、楽しい思い出を多く作る事ができました。



次回はどこかな？

(おわり)